

⑧ 自然地理学概論

⑧ 自然地理学

Introduction to Physical Geography

SAWADA Yasunori

澤田 康徳

科目ナンバリング：DEC-2-346-04/DIB-2-431-04/DLP-2-349-04

商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目

政経学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「専門性」を身につける為の科目



■授業の目的及び到達目標

人間は、自然環境と関わりながら地表で生活を営み、地表の自然環境に対し古来関心があります。また自然環境を理解することが生活の営みにとって重要でありました。自然環境は、様々な要素から構成され、要素同士が関連し地球システムとして成り立っているわけです。本講義では自然環境、それと関連した人文環境に関する地域認識を深めること、そして自然環境の課題にいかに対応していくか検討することを目指します。具体的に中等教育を想定し、その内容が説明できるか、新たに知った内容でも自ら調べ理解できるかを目標とします。

■授業計画

〔前期〕

- 1 自然環境と人文環境
自然環境を構成する要素を概観し、地球における自然地理学現象の整理のされ方や地球システムの概要を理解、自然地理学における地球の捉え方を獲得します。
- 2 日々の天気、気候の体感
天気や気候は日常生活と密接ですが、イメージと現実の天気や気候には差がある場合が多いです。天気や気候の研究視点を知る前段階として、自分が日常天気や気候をどのように感じたりしているか考えておいてください。
- 3 気候要素の変化
年平均気温や年降水量は、南北方向で大きい差がみられます。こういった地域差を理解します。
- 4 各季節に特徴的な気候
学ぶ気候要素の季節変化は、大気の動的季節変化の結果です。つまり、大気循環や気圧配置などの季節変化は、気候要素の変化に関わるので、第3回目の内容を理解しておいて下さい。
- 5 世界の自然環境
地球規模はもちろん、ある地域や居住地域の自然環境を理解しようとする場合、居住地域内の自然環境のみをとらえれば理解が十分であるわけではありません。人の居住費居住に関わらず世界の自然を概観します。
- 6 世界の地形
初等教育～、様々な地形や気候などの自然を学びます。自然地理学研究ではどのような特徴が示されているのか詳細にみます。
- 7 世界の気候
初等教育～、様々な地形や気候などの自然を学びます。学んできた内容が、自然地理学研究ではどのような特徴が示されているのか詳細にみます。
- 8 南北アメリカ州の自然
第5～7回目までの内容を、詳細な地域から概観します。今のアメリカ州はどのような自然からなりたち、社会が形成されているかをみていくので、特にアメリカ州の社会や文化を思い出してのぞんでください。
- 9 ヨーロッパ州の自然
今のヨーロッパ州はどのような自然からなりたち、社会が形成されているかをみていくので、特にヨーロッパ州の社会や文化を思い出してのぞんでください。第10回に関わりアジアのイメージをみなさんと共有します（提出課題あり）。
- 10 アジア州の自然
中国を主体とします。意外と中国は近くて遠いものかもしれません。今の中国社会をまとめておいてください。みなさんがイメージする中国のどのようなところが自然と関連しうるのか議論します。
- 11 アフリカ州の自然
今のアフリカ州はどのような自然からなりたつのか。さらに、アフリカ経済と自然の関係を考えます。
- 12 極域の自然
通常、旅行や仕事などで渡航する機会が少ない地域です。今、極域を理解することにどのような意味があるのかを考えます。
- 13 地球環境問題
世界そして様々な地域の自然を地理学的に理解し、再び地球の視野に立ってこれからの地球を考えます。

■授業の方法

本授業は、オンデマンドですが、授業各回においてみなさんの考えや疑問についてとりあげて、前回の課題に対するフィードバックとします。各回の課題の提出を踏まえて授業を構成します。特に後期は環境の課題を多く含むので、「どうすればよいか」など考える積極性を求めます。

■予習・復習

基本的には復習を重視します。既習事項を踏まえて授業を展開するからです。分からないことをそのままにしないよう、各回において復習し、質問がある場合は積極的にして下さい。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

成績評価は、学期末に提出するレポート50%、日頃の課題レポート30%、授業での簡単な課題20%の割合で評価します。レポート等の提出は、Blackboardを通して行います。

■教科書・参考書

基本的に、論文等のwebで得られる資料を用いて授業を展開します。みなさんが自身で深めることができることをねらっています。学ぶべき内容や資料等は適宜紹介するようにします。

〔後期〕

- 1 身近な環境；都市環境
人間活動が顕著な場所は都市です。その都市が自然に与える影響の可能性をみます。
- 2 都市と郊外の環境差
人間や都市は自然の改変と深くかかわります。地形、水文環境の他、気候環境について都市と郊外の差を捉えるようにします。
- 3 近年の異常気象の発生
災害に関わる異常気象の発生を、数十年遡ってみることにします。統計的な学習内容が多く含まれるので、なぜこのような「値」となるのか、なぜその値が問題となり得るのかなど復習によって深めるようにして下さい。
- 4 小～大地形
自然災害は、様々な要素が関わります。ここでは、地表特に地形を小さなスケールから大きなスケールまで捉え、災害に結びつく地形を考察します。
- 5 災害事象
これまでの1～5回目の内容をもとに、自然災害のを総合的に理解することを目指します（課題あり）。その理解度によって以降の内容を調節します。
- 6 観測や調査について
自然や災害がどう把握されるのかを知り、自ら調べられるようにします（課題あり）。
- 7 人口問題
人口と環境の関係性を理解します。
- 8 砂漠化
植生がない地域でサハラ砂漠などの砂漠増大する原因だけだけでなく、将来的にどのような変化を地球にもたらしうるのかを理解します。
- 9 日本の文化と環境
日本を社会的側面からまず理解します。そして、社会と自然の関わりをまなびます。
- 10 日本の環境変動
環境が変化することが、9回目でまなんだことによるような影響を与えるのかを考えます。
- 11 人々の環境認識
子どもの環境認識を考えます。一般的に、大学生や社会人の自然に対する認識の仕方そうなる理由を探ります。
- 12 子どもの環境認識
これまで学んだ自然が、子どもにはどのように認識されているのか、自然の現状との相違性を考えます。
- 13 地球システム
地表における自然環境の構成要素の理解を総合し、地球の理解を深めるまとめをします。